

報道関係 各位

2021年10月17日  
株式会社日本レースプロモーション

10月17日(日)  
2021年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦  
決勝速報

大津 弘樹が初優勝！  
野尻 智紀が悲願のドライバーズチャンピオンを獲得！

国内レースの最高峰、2021年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第7戦もてぎ大会の決勝レースが10月17日(日)、栃木県 ツインリンクもてぎで行われ、大津 弘樹(レッドブル・ムゲン・チーム・ゴウ)が自身初優勝を飾り、野尻 智紀(チーム・ムゲン)が最終戦を待たずに、ドライバーズチャンピオンに輝いた。

午前中から降り続いていた雨も、決勝レース開始の14時頃には上がり、ところどころ雲間から青空も覗かせるコンディションになったが、依然路面はウエットコンディション。ウエット宣言の下、14時45分に決勝はスタートした。

ポールポジションからスタートした大津は、スタートの1コーナーで山本 尚貴(ティーシーエス・ナカジマレーシング)に並びかけられるが、ポジションを死守。一方、4位以上でゴールすればチャンピオンが決まる野尻は、後方からの車両に次々とパスされ、1周目ホームストレートに戻った時点で7番手まで順位を落としてしまう。

しかし11周目にサッシャ・フェネストラズ(コンドレーレーシング)がコースアウトすると、すかさずセーフティーカーが導入され、ウエットタイヤの山本がトップに立つものの、路面はすでに乾き始めており、セーフティーカー導入前にドライタイヤに変えていた大津が再びトップに立つ。

レースは3度もセーフティーカーが入る荒れた展開となったが、大津はトップを守りきり自身初優勝を飾った。2位には、5番手からスタートし着実に順位を上げた阪口 晴南(ピーエムユーセルモインギング)。3位には、牧野 任祐(ドコモ・チーム・ダンディライアンレーシング)が入った。

そして、今大会優勝してチャンピオン争いを最終戦に持ち込みたかった関口 雄飛(カーエネクス チーム インパル)だったが、4位フィニッシュとなった為、最終的に5位でフィニッシュした野尻が悲願のドライバーズチャンピオンを獲得した。

最終戦は、10月30日(土)・31日(日)に鈴鹿サーキットで開催される。

\*記録の詳細は、公式ウェブサイトでご確認ください。



初優勝を果たした大津 弘樹



悲願のドライバーズチャンピオンを獲得した野尻 智紀